

第4回小田原市学校教育振興基本計画策定委員会会議録

- 1 日時 平成25年1月18日（金）午後6時00分～午後7時15分
- 2 場所 小田原市役所 大会議室
- 3 出席者 策定委員 鈴木 みゆき、二見 栄一、大輪 仁、小川 恵子、
栢沼 行雄、関田氏（高井 周作氏代理）、畠山 康、
神山 明美、瀬戸 祐明、片山 美代子、武藤氏（平松 章子
氏代理）、有賀 かおる（名簿順）
事務局 前田教育長、三廻部教育部長、佐藤教育部副部長、松本教育部
管理監、皆木保健給食課長、長澤教育指導課長、菴原指導・相
談担当課長、阿部教育総務課副課長、柏木教育指導課副課長、
下川施設係長、石井保健係長、田中教育指導課指導主事、石井
教育指導課指導主事、小林教育総務課主査、井上教育総務課主
任

4 議事等の概要

（1）開会

（2）議題 （1）意見交換会・パブリックコメントにおける市民意見の反映について

資料 小田原市学校教育振興基本計画（素案）25.1.18 現在

小田原市学校教育振興基本計画（案）に係る教育委員・策定委員と市民
との意見交換会の概要について

小田原市学校教育振興基本計画（案）に対する市民意見の募集結果につ
いて

○資料に基づき、教育部副部長から修正箇所等について説明

○質疑、意見

栢沼委員…「国を誇りに思う」という表現を入れるべきではないかとの御意見に対し
ての教育委員会としての見解についての説明がありましたが、結論から言
えば正にその通りだと思います。教育基本法に則って、国・県・市町村が
教育施策を展開していくわけで、その中で小田原としては、めざす子ども
の姿として、「郷土を愛し、大切にしたいを持った子ども」を育成する

ということに重点を置いており、郷土を愛するということは、即ち国を愛するということになるという考えは間違っていないと思いますし、「国を誇りに思う」という文言よりは、小田原の教育の考え方としては適切だと思います。

二見委員…私も今の部分については、国の施策の方針の中にも、「郷土愛」というものがしっかりと提言されておりますので、それを受けての市の計画ということで、このままでよろしいかと思います。

片山委員…4ページで「全国学力・学習状況調査アンケート結果」の表がありますが、状況なら分かるのですが、この表のどこが学力に関係あるのかということに疑問に思いました。また、表中に「学校や塾の先生」という文言がありますが、全員が塾に行っているのかというと、違うと思いますので、少し理解が出来ない部分です。

教育指導課長…こちらのアンケートの項目につきましては、小田原市独自のものではなく、「全国学力・学習状況調査」の項目になります。「全国学力・学習状況調査」といいますのは、学力調査に加え、「子どもたちが置かれている学習環境はどういうものなのか」というものをアンケート調査しているものですので、項目自体はこのような形になってしまいます。

片山委員…「全国学力」という文言を入れないとおかしくなってしまうということでしょうか。「全国学力・学習状況調査」と「・」が付いているので、「全国学力」という部分が要らないのではないかと思ったのですが。

教育指導課長…「全国学力・学習状況調査」という名称で、1つの括りになっていきますので、「・」で切れているのではなくて、1つの文言になっています。

片山委員…これをぱっと見た人は、学力のことも載っているのだなと思ってしまいます。

教育部長…これは、「全国学力・学習状況調査」という大きな括りの中で行われているアンケート調査になります。児童生徒は、国語や、算数・数学、理科などのテストを受けるのと同時に、このアンケートに答えています。そういったことで、タイトルが一括りになっているのですが、分かりにくいでしょうか。

片山委員…説明していらっしゃる意味は良く分かったのですが、この表記は少し分か

りにくいと思います。

前田教育長…タイトルに括弧書きで、「生活調査に関すること」などを入れれば良いのではないのでしょうか。

片山委員…そのように、括弧書きなどで、注釈のようなものを入れていただければ、分かりやすいと思います。

教育部長…上部の「本市の人口・世帯数推移」の表のように、出典を括弧で書くような形で修正します。

栢沼委員…この表には3つの質問がありますが、調査の分類の中のどこのジャンルのものなのかが分かるのであれば、質問の上の部分に書いていただければ、教育の現状や子どもたちの状況というものが伝わりやすくなるのではないかと思います。学力そのものというよりは、子どもたちの教育環境の状況についての調査ということなので、これが分かるようにしていただければと思います。

大輪委員長…片山委員からは、この文言がかえって邪魔をして、何のための表なのかが分かりにくいということですので、そこを補足するような意味合いで、栢沼委員からの意見も含めて、修正を加えていただくということで確認したいと思います。

有賀委員…今の部分に関連して、61ページの成果指標の7番にこの3つの質問が書かれています。この3つについては、アスタリスクがついており、62ページに説明がありますが、このような説明を4ページの表にも付けて、抜粋したということが分かるようにすれば良いのではないかと思います。

瀬戸委員…この表については、「アンケート」という文言を入れなければならないのでしょうか。表題をもう少し考えられれば良いのではないかとということと、この表を出して来たのは、本文の3段目を受けてのことだと思うのですが、そうすると、表の中学生の数値は別に低くないのではないかと思います。小学校は数値が低いので、表として挙げていくことは分かるのですが、この整合性をどのように汲み取れば良いのでしょうか。今回出たものの中で、唯一、どのように捉えたら良いのかが分からなかった部分でした。

教育部長…地域の希薄化が懸念されている現状をどのようなもので表すのかということで、元々は子ども会の加入率を載せており、「それが良い」というパブ

リックコメントの御意見もあったのですが、やはり、特定の団体に対する配慮が欠けていたのではないかという考えの中で、「全国学力・学習状況調査」の中の質問項目を取り上げました。一番上の質問は毎年取り上げられている質問であり、残りの2つは平成24年度に初めて取り上げられた質問です。来年度に悉皆調査になったときに同じ質問が取り上げられるのかということはまだ不透明なのですが、1つの指標としてここに落とし込んでみようということで、3段目の文言を加え、希薄化ということを表すとともに、それに対してどのようなことが必要なのかということを表しています。

教育指導課副課長…補足ですが、瀬戸委員が仰られたように、中学生はそれほど低くもないですが、子ども会の加入率でも分かるように、小学生が低いということで、それを示す意味で載せておりますので、その部分を読み取っていただければと思います。

瀬戸委員…私たちのように議論をしている人は良いのですが、これをぱっと見た人はそうは思わないのではないかと思います。表の中に中学生は要らないのではないかとも思うのですが、そうすると逆に、成果指標をどう展開していくのか、成果指標の中学校の目標40%で良いのかということなどに対する落ち着いた方をどのようにしていけば良いのかということなど、自分の中でも消化できていない部分です。

大輪委員長…このページのタイトルに「家庭・地域の教育力の低下」と謳った中での表であることを考えると、整合性が出てくるのではないかという考え方もなってくると思います。そのようにこの表を見ていけば、瀬戸委員が仰られるように、中学生はそこそこの数値になっていますが、小中の発育・発達の中でものを考えていかなければならないということは読み取れていくのではないのでしょうか。子ども会の加入率の表との差し替えということで、事務局も苦慮した中で、この表が出てきたことも良く分かりますので、それもしっかりと受け止めた中で考えていきたいと思います。

武藤氏…今回、代理で出席するというので、この資料を読みました。小田原市が子どもを育てる姿ということで、これはとても素晴らしいものだと思いますが、それでも意見交換会やパブリックコメントでCやDという意見が

出ています。この問題がなぜ出てくるのかは検討しなければならないと思いますし、それを表に出してこないのは私には良く分かりませんでした。ただ、内容は本当に素晴らしいですし、これを本当にやっていただければ小田原の子どもたちは本当に幸せだと思います。

大輪委員長…今後の展望も含めての御意見ということで、策定の趣旨をしっかりと押さえた中で、今後どう進めていくのかということが大事だということだと思います。

二見委員…49ページの「産業医等による相談体制の充実」という部分で、パブリックコメントの資料には産業医の説明があるのですが、計画の中には説明がないので、この言葉を皆さんが広く知っているのであれば良いのですが、そうでないならば、用語解説が必要なのではないかと思います。

(3) 議題 (2) 施策の展開について

資料 小田原市学校教育振興基本計画（概要版）

小田原市学校教育振興基本計画（表紙）

○資料に基づき、阿部教育総務課副課長から説明

○質疑、意見

栢沼委員…単純なことです。素案の中では小田原市がめざす子どもの姿として、「3つの心と3つの力を持った未来を拓くたくましい子ども」とされていますが、概要版では「3つの心」と「3つの力」の位置が逆になっている意味はあるのでしょうか。また、「持った」という部分も概要版では平仮名になっていますが、分かりやすくしたということでしょうか。

教育指導課指導主事…単純な間違いになります。

大輪委員長…素案に合わせて概要版を修正するという確認したいと思います。

畠山委員…県立高校に少し関わっているのですが、生徒の写真を出すことに凄くナーバスになっており、「個人の特定が出来るような写真は使わないように」ということを言われています。ここで使っている写真の扱いはどうなのでしょう。

教育指導課指導主事…ここにある写真のほとんどは広報誌で使われていたものになります。

畠山委員…広報に載せても良いという確認をしているということで、承知しました。

大輪委員長…計画の内容をダイジェストにするということで、まだまだ字は多いとは感じますが、すべてを網羅すると、このような形になると思います。

瀬戸委員…中の表の項目や施策の展開は全部必要なのですよね。文字を大きくしたら入らないですし、難しいですね。

大輪委員長…項目を落とすわけにはいかないとは思いますが。

瀬戸委員…小田原市がめざす子どもの姿の表は、計画では5色にしていますが、概要版では黄色1色にしています。計画に合わせないのでしょうか。

教育部長…概要版ですので、シンプルにしています。

栢沼委員…表紙の紺色の部分には、概要版と同様に市のシンボルマークは入るのでしょうか。

教育指導課指導主事…表紙を先に作らせていただいて、概要版では改良してシンボルマークを入れてみたものです。

栢沼委員…市の基本計画なので、表紙にも市のシンボルマークを入れたほうが良いと思います。

鈴木副委員長…確認なのですが、この概要版はどのような形で、誰に配布することを考えているのでしょうか。

教育部副部長…学校の教職員に配布し、認知度を高めたいということと、自治会関係者の方などにも配布したいと考えています。計画本文は市のホームページなどでも御覧いただけるようにはいたしますが、すべての関係者の方に本文を配布することは難しいので、概要版をきっかけに、多くの方に本文を読んでいただければと思います。

鈴木副委員長…そういうことであれば、概要版の中に、「本文は市のホームページ上で見る事が出来ます」というような一文を入れたほうが良いと思います。

前田教育長…本文の47ページを御覧いただきたいと思います。そこに、「二宮尊徳学習の充実に努めます」とございますが、スペースもございますので、内容を若干膨らませた形にしたいと思います。思想的な側面を入れるということではなく、小田原市では小学校4年生になると、全員で尊徳学習をしますので、その内容を入れたいということで、御了承いただけますでしょうか。

大輪委員長…御異議ないようですので、了解いたしました。

(4) その他

大輪委員長…全体を通して、何かありましたら御意見をいただければと思います。

瀬戸委員…70ページから始まる用語解説ですが、もう少し端的にならないでしょうか。1つ1つもズレがあると思います。例えば、「小田原市立小中学校校舎リニューアル整備計画」とあり、長い説明になっていますが、言い訳にしかかかっていないような気がします。ここで言い訳しても仕方がないので、単純にしても良いのではないかと思います。また、人を説明するのに、ニュアンスが違ってしまっているものがある気がしました。例えば、「教育相談員」についても、教育相談員を設置するための趣旨が説明されているだけで、教育相談員とは何かということが分かりにくくなってしまっています。そのものだけを端的に分らせるための説明にはなっていないということと、先ほど、追加したという説明があった「カリキュラムマネジメント」についても、何を言いたいのかが分からないと思います。また、「放課後児童クラブ」の説明の中で、「共働き」という文言を使っていますが、この表現を使って良いのかということと、「小学校おおむね1～3年生」ということで、おそらく厚生労働省の指針などでは、1～3年生が原則で、4年生なども入れても良いということを行っていると思うので、このような表現になったのだと思いますが、再度、分かりやすいように表現の見直しをしていただければと思います。

関田氏…60ページに成果指標がありますが、市民や会社の感覚で言うと、まず具体的な数値目標があって、それに対して達成できたかというような計画の見直しをするのが普通の感覚だと思います。本文では成果目標が後ろにあり、また、概要版にも具体的に載っていないということで、成果指標を市民が知らないままになってしまう可能性があるのではないかと思います。保護者の感覚だと、「これだけ数が増える」「これだけ足りない」ということがダイレクトに入ってきたほうが、関心が高まるように思います。保護者は本文だけでなく、概要版についても細かい部分は関心がないので、読まないと思います。60ページの成果指標は具体的でインパクトがありますの

で、これを見ると、これだけのことをやっていただけるということで、ありがたいと思う部分もありますし、良い数値や目標だと思いますので、少しもったいない気もして、意見させていただきました。

大輪委員長…構成上の問題もあると思いますので、御意見ということでとどめておきたいと思います。

神山委員…市民意見などを見ても、とても細かい部分まで意見を出していただいていると思います。子育て中の看護師もいますので、話を聞いてきたのですが、いじめについてはナーバスな問題だと感じています。意見交換会での市民意見を見ても、「認知されたいじめ」は「大人から見た認知」であるのは当然のことですので、違う見方でも、いじめや人間関係を見ていく方法が見つけられたらと思いました。

学校図書館についても、市立図書館は薄暗いイメージがあり、子どもが使用しないということは周りからも聞いているので、新たに整備することは難しいですが、今ある図書館なども整理して変えていくということも必要なのではないかと思います。

週休5日制や2学期制についても意見があったようであり、私も何人かに聞いてみたのですが、「自分たちは3学期制で育ち、土曜日も半日学校があった時代に育ったということもあり、逆になぜ2学期制になったのか、週休5日制になったのかが分からないので、良さや弱点が分からない」ということでした。市民意見でも「見直したほうが良い」とありますが、何を見直すのかが分かりませんでした。「なぜ2学期制になったのか、週休5日制になったのか」ということをもう少し明確にすれば、市民の方もこのような意見ではなく、今ある中で進めていってくださるのかなと思いました。

また、パブリックコメントの意見の中で、「小学校1年生の中でも差がある」ということですが、学力差があるとしても、小学校1年生のあり方自体の視点を変えて、ゆっくり集団生活を覚える1年だということをもう少し広めても良いのかなと思います。

その下の「おだわらっ子の約束」については、保護者は見たことがあっても、知らない子どもが多かったです。広報の仕方を考えても良いのかな

と思います。

有賀委員…概要版のどこかに、おだわらっ子の約束のシンボルマークを入れてはいい
がでしょうか。このマークは色々なところで目にしますので、あると良い
と思いました。

大輪委員長…スペースが許せばということで、事務局に一任いたします。

○今後のスケジュールについて、阿部教育総務課副課長から説明

(5) 教育長閉会挨拶

(6) 閉会